

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

様々な背景を持った生徒が、社会の有為な人材となるような教育活動を実践する学校をめざす。

- 1 基礎学力をしっかりと身に付け、自信を持って「夢」や「志」を開拓できる生徒を育成する。
- 2 社会を生き抜く規範意識とマナーを持ち、社会に貢献できる多様な人材を育成する。
- 3 教職員が切磋琢磨しお互いに支え合い、生徒や保護者、地域から信頼される学びの場をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒に達成感を与える「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ・日常の授業における基礎学力の充実・定着を図ることを主眼に、小規模校のスケールメリットを活かして、生徒の理解度を日々の小テストや復習などで検証しながら、生徒の実態に応じた授業改善、教材の開発・工夫に取り組む。
- ・授業力向上等検討委員会を中心に、教員相互の公開授業や研究授業に基づいた研修会をさらに充実したものにする。
- ・「学校情報委員会」を中心に I C T の効果的な活用や授業の研究・改善について組織的に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断の、授業内容に関する項目に対する肯定率 80%以上を、今後も維持する。(平成 29 年度 84%)

2 生徒の達成感や自尊感情を育み、夢の実現に向けた支援体制の確立

(1) 社会性と規範意識の確立と自尊感情の醸成

- ・生徒が自らの行動を律することのできるよう、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
- ・生徒自治会を中心とした挨拶運動を継続するとともに、全日制自治会との連携共同を進める。

※生徒向け学校教育自己診断の、生活指導に関する項目に対する肯定率 80%以上を、今後も維持する。(平成 29 年度 87%)

(2) キャリア教育の充実と進路保障

- ・進路に対する動機付けが出来るよう、ハローワークやキャリアブリッジなどの外部機関と連携し、1 年次から計画的にキャリア教育を実施する。
- ・卒業時の正規雇用希望者の合格率 80%以上を今後も維持する。(平成 29 年度 88%)

※生徒向け学校教育自己診断の、進路指導に関する項目に対する肯定率 80%以上を、今後も維持する。(平成 29 年度 89%)

- ・就職・進学につながる資格取得にむけて、担当教科がその指導を行い、各種検定の合格者の目標を毎年度 7 名以上とする。(平成 29 年度 9 名)

(3) 行事や自治会活動、部活動を通じて集団の中で協力しながら活動できる力を育成する。

- ・各種行事の出席率が常に 70%以上となることを目標とする。また、部活動加入率が常に 50%以上となることを目標とする。

(平成 29 年度 行事出席率約 60% 部活動加入率約 55%)

(4) 在籍生徒の適正管理と新入生の進級率の維持向上

- ・保護者や関係機関との連携を強化するとともに、「生徒支援委員会」を中心とし、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を組織的に行う体制を一層推進する。
- ・生徒情報の共有を確かなものにし、生徒理解を深め、中途退学や留年の防止に努める。
- ・長期にわたり登校実績のない生徒の状況を把握し、適正な在籍管理を行う。

※新入生の進級率 70%以上を維持する。(平成 29 年度 76%)

3 開かれた学校運営と地域連携

(1) 全教職員が学校経営に参画する自覚を持ち、組織の向上のために忌憚のない意見交換が出来る環境を整えるとともに、協働連携の学校文化を醸成する。

(2) 全定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にして、さらに有効有意な関係を構築する。

(3) 地域連携を進め、地域に理解され、地域から信頼される学校をめざす。

- ・豊中市立の中学校 18 校を中心に中学校訪問や中高連絡会を行い、連携と情報共有を推進する。
- ・豊中市役所、警察署、社会福祉協議会、子ども家庭センター、国際交流センター等の外部機関との連携を推進し、生徒の健全育成に役立てる。
- ・学校運営協議会と定時制振興会の活性化を促進し、学校改善のために意見を学校経営に反映させる。
- ・学校 W e b ページや広報物の充実を図る。

※教職員向け学校教育自己診断の、地域連携に関する項目に対する肯定率 80%以上を、今後も維持する。(平成 29 年度 85%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の工夫」について、88%の生徒が肯定的評価をしている。しかし、「学力の伸長」については、教員は 92%が肯定的評価をしているのに対し、生徒の肯定的評価は 85%であった。この教員と生徒の学力の伸長への評価の差を縮めるとともに、生徒が自分の学力の伸長を実感できるよう、継続して授業改善に取り組んでいく。 <p>【生活指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話を聞いてくれる教員が多い」「気軽に相談できる雰囲気がある」という設問に対し、教員はともに 100%が肯定的評価し、生徒もそれぞれ 89%、80%が肯定的評価をしている。生徒のこの高い評価を維持していくため、より日常的にきめ細かい生徒対応を継続していく。 ・「生活指導」に対しては、生徒の 92%、保護者の 91%、教員の 83%が肯定的評価をしている。安心して学べる落ち着いた本校の学校生活が高い評価に結び付いていると考えている。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路指導」に対しては、生徒の 94%、教員の 83%が肯定的評価をしている。生徒の評価は昨年度より 5 ポイント上昇し、この 5 年間で最も高い値である。継続的なキャリア教育が、生徒の高い評価に結び付いていると考えている <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「准校長のリーダーシップ」については、92%の教員が肯定的評価をしている。昨年まで 4 年連続して 100%であったので、来年度の課題としたい。 ・分掌間の連携、教職員の相互理解は、ともに昨年度と大きな変化がない。このことを踏まえて、来年度新しい校内体制のもと学校運営を進めていく予定である。 	<p>今年度、「学校協議会」から「学校運営協議会」へ改編されることを機に、全日制と定時制の二つの課程を総合的に協議する「一つの運営協議会」として開催することとした。</p> <p>第 1 回 (6 月 21 日)</p> <p>○平成 30 年度学校教育計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校であることを負の側面と捉えず、「小規模校の強み」を活かして、一人ひとりの生徒に対応した、さまざまな取組みを展開してほしい。 ・昨年度は初めて全定合同の協議会を開催したが、今年度から府立高校で唯一、全定二つの課程を合わせた「一つの運営協議会」として発足したことは、とても意義深いことである。今後、両課程の一層の連携に期待したい。 <p>第 2 回 (10 月 11 日)</p> <p>○学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの結果から、生徒の授業への満足度は高いが、学力が身についたことへの実感が乏しいことが分かる。基礎学力に不安を抱える生徒が多いとは思いますが、定時制でも「深い学び」の実現をめざして取組みを進めてほしい。 <p>○文化祭について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制の生徒の明るさや素直さを感じる。全日制のように大きな取り組みは難しいかもしれないが、定時制ならではの取組みを進めてほしい。 <p>第 3 回 (2 月 21 日)</p> <p>○平成 30 年・31 年の学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートから、生徒の授業に取り組む姿勢が向上していることがよく分かる。今後は、授業への興味関心を高めること、知識技能が身についたことへの実感を高める取組みを継続して進めてほしい。 ・今年度は大きな災害に見舞われた年であった。その中で、これまで気づかなかった課題も明確になったことと思う。夜間に学校生活を送る生徒の安全に、今後も十分に留意し、設備の改善等に努めてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取り組み</p> <p>ア・授業力向上等検討委員会と各教科の連携による授業改善</p> <p>イ・公開授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進</p> <p>ウ・ICTを活用した研究授業による授業改善の推進</p>	<p>ア・授業力向上等検討委員会と各教科の連携で、生徒の実態に応じた授業改善に取り組むとともに、業務の効率化を図る。</p> <p>イ・授業力向上等検討委員会で企画した公開授業（6月、11月）に合わせ、教員相互の授業見学週間を設定し、他の教員からの助言を授業改善に活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業後に、授業改善のために全員参加の研修会を年間2回実施する。 授業アンケート（7月、12月）は第1回を課題把握、第2回を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。 <p>ウ・「学校情報委員会」が核となり、ICTを使った効果的な授業方法を検討し、その公開授業を実施する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における学力面に対する肯定率 80%以上 (平成29年度 84%)</p> <p>イ・全教員による年4回以上の授業見学の推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向け学校教育自己診断の授業における工夫に対する肯定率 90%以上 (平成29年度 100%) <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断結果における授業の工夫に対する肯定率 80%以上 (平成29年度 92%)</p>	<p>ア・生徒の理解度に対応した教材を作成し、可能な限り少人数展開の授業を実施している。ICT機器や実験、実習を取り入れた授業を行っている。「学力面」に対する生徒の肯定率は85%であった。(○)</p> <p>イ・全教員が年間に4回以上、他の教員の授業を見学した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間2回の授業見学後の研修会では、班別に研究授業の評価と改善について協議した。「授業の工夫」に対する教員の肯定率は100%であった。(◎) 生徒数が少ないため、アンケートの数値はアンケートを実施するごとに大きく変動する。そのため、管理職の日常的な授業観察と合わせて、各教員の授業改善の指標としている。(○) <p>ウ・多くの教員が、日常的にICT機器を使った視覚的な教材を活用し、生徒の興味を引きだし理解を高める工夫をしている。「授業の工夫」に対する生徒の肯定率は88%であった。(○)</p>
2 生徒の達成感や自尊感情を育み、夢の実現に向けた支援体制の確立	<p>(1) 社会性と規範意識の確立と自尊感情の醸成</p> <p>(2) キャリア教育の充実と進路保障</p> <p>(3) 行事や生徒自治会活動、部活動を通じて集団の中で調和しながら活動できる能力を育成する。</p> <p>(4) 在籍生徒の適正管理と新入生の進級率増加</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻しない、欠席の際には事前に担任に連絡する、人の話を静かに聞く、言葉づかいに気をつける等、社会性と規範意識の確立をめざす。登校時の教員と生徒によるあいさつ運動を継続する。 全定併置校の特色を活かし、全日制自治会と連携した取組を進める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次から計画的に進路指導部と学年が連携しキャリア教育を実践する。 外部講師の講演を積極的に実施し、進路に対して希望の持てる動機付けを行う。 各種の資格試験に挑戦し合格することで、生徒に自尊感情や自己肯定感を獲得させ進路指導につなげる。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動に参加し、仲間意識を育むことによって、生徒の達成感や自尊感情を高める。 生徒自治会活動に参加し、地域と交流することで、本校への帰属意識や連帯感を高める。 各種学校行事への参加を促し、仲間意識と帰属意識を高める。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒との面談や保護者との懇談、日常の電話連絡や家庭訪問を通じ、一人ひとりの生徒に対して、きめ細かく対応する。 「生徒支援委員会」を中心と、組織的に生徒の支援に努める。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識に対する肯定率 80%以上 (平成29年度 84%) 全日制と連携した取り組みや記念事業への取組を2回以上実施する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導に対する肯定率 80%以上 (平成29年度 89%) 卒業時の正規雇用希望者の合格率 80%以上 (平成29年度 88%) 各種の資格試験の合格者数の目標を7名以上 (平成29年度 9名) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率 50%以上 (平成29年度 55%) 行事への参加率 70%以上 (平成29年度 60%) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入生の進級率 70%以上を目標とする。 (平成29年度 76%) 生徒向け学校教育自己診断結果における本校に対する満足度の項目の肯定率 80%以上 (平成29年度 91%) 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会等のアンケートでは、生徒の授業への落ち着いた取組みへの評価が高い。また、講演等での生徒の姿勢も、毎回講師の方から高い評価をいただいている。「規範意識」に対する生徒の肯定率は92%であった。(◎) 全日制と共同で、七夕、クリスマスなどのイベントを3回実施した(○)。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生にはNP0と連携した将来設計の授業、3年生には外部機関と連携しGABTテストをそれぞれ行った。また、ハローワークとも連携し就職セミナーを実施した。 大学進学者は2名であった。 就職内定者は4名であった。学校斡旋の正規雇用希望者の合格率は70%であった。(△) 「進路指導」に対する生徒の肯定率は94%であり、この5年間で最も高い値であった。(◎) 数学検定に2名が合格した。(△) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率は55%であった。(○) 秋季発表大会で2名が教育委員会賞、1名が校長協会定通部会賞を受賞した。柔道部が4年連続で全国大会と近畿大会に出場した。(◎) 各種行事への参加率は60%であった。(△) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入生の進級率は79%であった。(○) 「生徒支援委員会」は支援コーディネータを中心に外部機関とも連携を進め、組織的に生徒対応にあたっている。(○) 87%の生徒が、本校に入学してよかったと回答している。(○)
3 開かれた学校運営と地域連携	<p>(1) 全教職員が学校経営に参画しているとの自覚を持ち、忌憚のない意見交換が出来るよう環境を整える。</p> <p>(2) 地域との連携を進め、地域に理解され、地域から信頼される学校をめざす。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員会議で自らの考えをはっきりと述べられるように教職員に働きかける。 教員がより主体的に学校運営に関われるよう、必要に応じてワーキンググループ等を立ち上げる。 教職員の防災や防犯に関する知識の再確認と研修を実施する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊中市立各中学校を中心に中学校訪問や中高連絡会を実施し連携を進める。 夜間学級と連携し、相互の授業見学会等を実施する。 学校説明会で、保護者や卒業生等に、学校生活について話してもらう場面を設定する。 豊中市役所、警察署、子ども家庭センター等の外部機関との連携を行い生徒の健全育成に役立てる。 学校運営協議会と振興会の活性化を促進し、積極的な意見を述べてもらう。 学校Webページの更新を継続し、メールマガジン等を発行する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向け学校教育自己診断結果における学校運営に関する項目の肯定率 90%以上 (平成29年度 100%) 教員向け学校教育自己診断結果における防災や防犯に関する項目の肯定率 80%以上 (平成29年度 92%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問と中高連絡会を2回実施し本校の良さを地域に伝える。 教員向け学校教育自己診断結果における地域連携に関する項目の肯定率 80%以上 (平成29年度 85%) メールマガジンを月2回以上発行する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校運営」に対しては100%の教員が肯定的評価をしている(◎) 「防災防犯」に対しては、75%の教員が肯定的な評価をしている。昨年よりも評価が下がったのは、地震や台風に直面してさまざまな課題が顕在化した結果だと考える。(△) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間に中学校訪問を3回、中高連絡会を2回実施し、情報交換を行った。(○) 豊中市の18の市立中学校は、全校を3回訪問し、進学相談会等の案内を行った。(◎) 2回の学校説明会には合わせて80名以上の参加者があり、本校の取組みに高い評価を得た。(◎) 学校運営協議会を全定一つの会議として開催し、より広い観点からの意見や提案をいただいた。(○) 学校Webページは常に更新を行っている。本校では、メールマガジンよりもブログが有効と考え、ブログによる情報発信に力を入れ、年間を通じて600件以上の情報を発信した。(◎) 「地域連携」に対して、教員の83%が肯定的評価をしている。(○)